

# 平成18年度 全学FD 徳島大学教育カンファレンス ワークショップへの参加案内

## 「体験型授業を体験してみよう！」

～「異文化間コミュニケーション」における多様性教育の実践～

日時：2007年3月14日（水）9：45～11：45  
会場：徳島大学工学部内 共通講義棟K505  
担当者：坂田 浩（徳島大学留学生センター助教）  
司会：宮田政徳（徳島大学大学開放実践センター助教）



### 体験型授業とは

現在、多くの教育機関で授業改革が叫ばれ、その中でも「体験型授業」に最近大きな注目が集まっているようです。講義形式の授業で知識を詰め込むばかりではなく、より高度な理解を求めするために「知識」と「体験」を融合させていくことの重要性が認知されてきています。

今回のワークショップでは、「異文化間コミュニケーション」の授業で私が4年間にわたり実践してきた多様性教育の一部を紹介します。国際化がより身近な課題として位置づけられるようになってきた今日では、「異なる人々とどのように共生するか」が非常に大きな命題となってきましたが、この命題は、「具体的な行動」を伴ってはじめて達成されるものであり、従来の講義形式を中心とした「知育」のみでは対応できません。「知識」と「体験」を融合させ、より高度な理解を得ることができてはじめて行動面での変化が現れるのであり、その行動面での変化が現れることにより、更なる知識の獲得が容易になっていくものと考えられます。

### ワークショップ内容

今回のワークショップは、①参加者に体験型授業を体験してもらい、②当該授業の概要および体験型学習の理論的背景についてまとめます。具体的には、次の流れになります。

- ① Group Making
- ② Ice Breaking
- ③ 「コミュニケーションスタイル」講義
- ④ 「コミュニケーションスタイル診断」
- ⑤ コミュニケーション・エクササイズ「Redundancia」
- ⑥ エクササイズのまとめ
- ⑦ 「異文化間コミュニケーション」授業概要

- ⑧ 体験型学習の理論
- ⑨ 体験型学習の限界と課題
- ⑩ 討論

### 期待できる効果

本ワークショップにおける最大の効果は、「体験型授業を体験できる」という点です。「体験的授業は魅力的だけど、自分自身が体験したことも無いから・・・」という方々に非常に多くの示唆を与えることになると思います。

これから、学習者の質は急激に変化していくと考えられ、この急激な変化に対応するためにも授業者側が様々な教育手法をオプションとして学習しておくことは非常に重要なことです。本ワークショップで提示する体験型授業も一つの可能性を有した授業体系であり、多様な学習者に対応していくための有効な手法であると期待できます。

本ワークショップが、今後の授業改革に少しでも寄与できるものとなれば幸いです。

### ワークショップ申し込み方法

本ワークショップでは予め大まかな参加者数を把握しておきたいので、事前に下記へ参加の申し込みをお願いしたいと思います。なお、参加費は無料です。

対象者：学校教員・大学教員・企業人事担当者・塾講師など

人数：30名まで（先着順です）

申し込み締め切り：2007年3月7日（水）

申し込み先：徳島大学大学開放実践センター  
担当 奈良理恵

電話：088-656-7276（内線）7102

e-mail: rie-nara@cue.tokushima-u.ac.jp

メールに、氏名・年齢・ご職業・ご連絡先をお書きの上お申込みください。